

◎ 2020年2月の国内電気銅建値は下記の通りです。

2月	3日	～	640円/Kg
2月	6日	～	670円/Kg
2月	18日	～	680円/Kg
2月	25日	～	670円/kg

2020年2月度は平均で667.00円/kgとなり、前月比39.30円/kgの値下がりとなりました。

海外銅価の動き

2月のLME銅相場	2/3～2/27	(安値ドル5,595.00～5,802.50 高値ドル)
2月のNYC銅相場	2/3～2/27	(安値セント251.30～261.95 高値セント)

2月度のLME現物は、2/3 \$5,595.00、LME在庫は18万tを切ったところでのスタート。前月\$6,000台でのスタートを切り、1/22までその\$6,000台をキープしたものの、中国・春節を挟んだ新型コロナウイルスの影響は凄まじい猛威を振るう形となった。中国国内での新型コロナウイルスの広がりには経済への大きな打撃を与え出す様相を見せており、日本・韓国を含むアジア周辺の各国の生活レベルに対しても、大きな影響を与え出している。更に、ここに来てイタリアやイランでの感染も急増し全世界への拡大が継続する状況だ。中国の春節明けからも混乱が拡大する中、銅相場へも次第に影響を与えつつあると言える。経済面での先が見えない状況から、日に日に落ち着きがなくなっている形だ。米・アップルの大幅な業績ダウンの発表を始め、今後このウイルスの猛威がどこまで銅相場に影響を与えるのか、注視して行く必要がある。

銅需給バランス…Brook Hunt 情報 2019年7月 資料より (単位/千トン)

	2018年 実績	2019年 実績	前年比	2020年 予想	前年比	2021年 予想	前年比
全世界地金生産	23,339	23,843	+2.2%	24,253	+1.7%	24,655	+1.7%
全世界地金消費	23,579	23,932	+1.5%	24,290	+1.5%	24,607	+1.3%
全世界需給バランス	-240	-89		-38		+48	

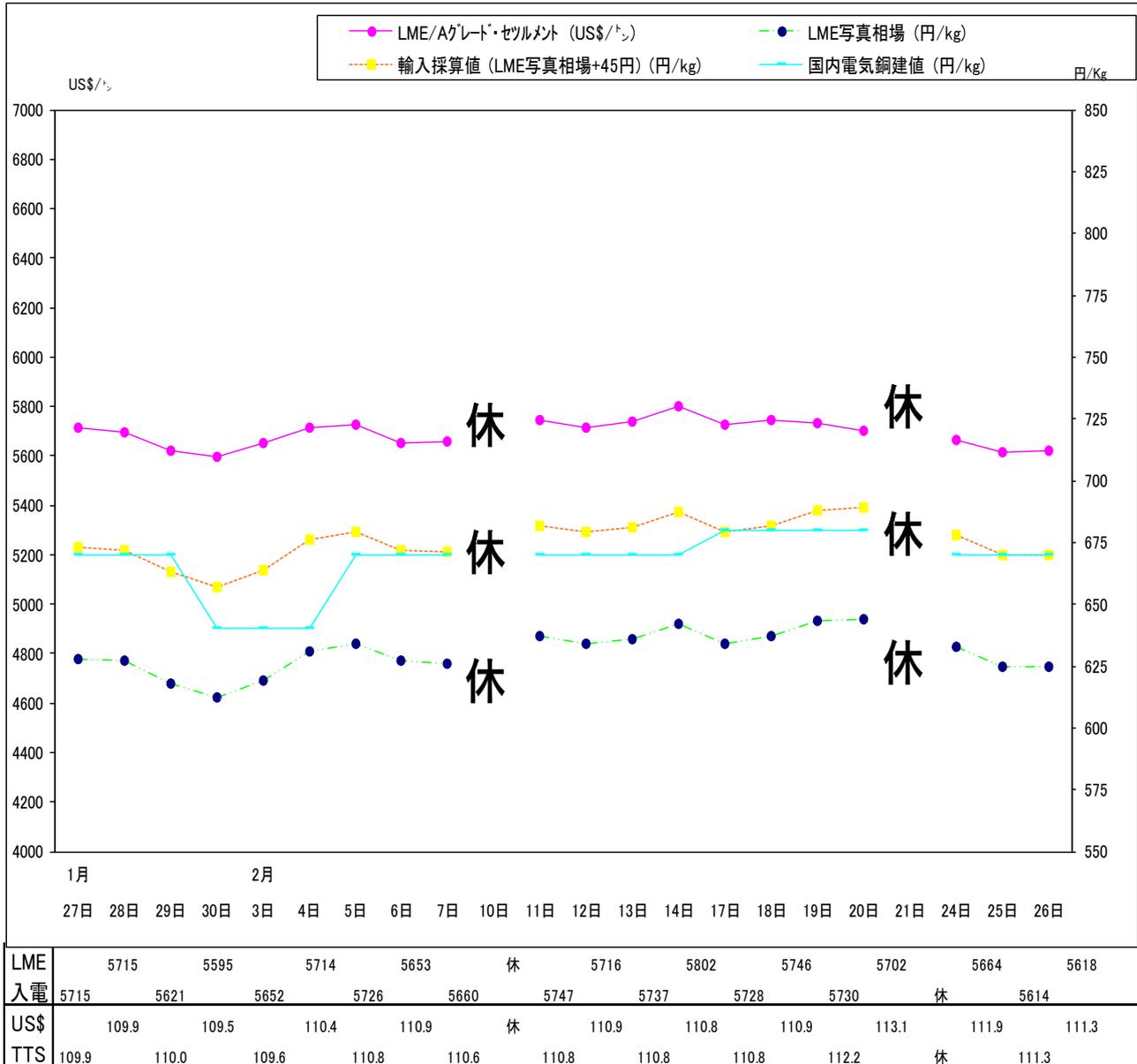
先行き短期見通

国内銅価

2月の国内建値は3日640円/kgでスタート。先への不安をよそに比較的割安感からか、堅調な動きとなり、6日建値は670円/kgへと30円のアップとなった。更に18日には10円上がり680円/kgとなるものの、円安で維持していた建値価格は、25日10円ダウンの670円に改定された。

2/27付 LME \$5,618.00、同 為替 (TTS) 1USD=111.36円で日本円換算計算値626円/kg。2020年3月の国内電気銅建値のスタートは、以降変化のない限り、660円の予想です。

◎ LME相場推移及び国内電気銅建値推移



◎ 2020年2月の国内亜鉛建値は下記の通りです。

- 2月 3日 ~ 292 円/kg
- 2月 6日 ~ 295 円/kg
- 2月 12日 ~ 286 円/kg
- 2月 19日 ~ 283 円/kg
- 2月 25日 ~ 274 円/kg

平均285.30円/kg

2020年2月は上記の通りで前月比 27.10円/kgの 値下げとなりました。

これはLME亜鉛相場の下落で引き下げられたもの

◎ その他の建値

電気鉛	2月	270.00 円/kg	(前月比-	1.90 円/kg)
電気錫 (相対)	2月	3,200.00 円/kg	(前月比-	60.00 円/kg)
ニッケル (溶解用)	2月市中価格	1,500.00 円/kg ~ 1,550.00 円/kg		
銀	1月平均	64,560.00 円/kg	(前月比+	3,210.00 円/kg)
	2月28日	64,030.00 円/kg		
金	1月平均	5,525.89 円/g	(前月比+	322.26 円/g)
	2月28日	5,802.00 円/g		

◎ 伸銅品関係

2020年1月の伸銅品・品種別生産速報 (全国ベース)

		12月度実績	1月度速報	前月比	前年1月度実績	前年同月比
銅	板	1,662	1,417	-14.7%	1,475	-3.9%
	条	19,338	18,446	-4.6%	20,987	-12.1%
	管	8,795	8,466	-3.7%	8,424	0.5%
	棒	1,902	1,990	4.6%	2,060	-3.4%
	線	250	228	-8.8%	241	-5.4%
黄銅	板	629	424	-32.6%	432	-1.9%
	条	7,364	7,221	-1.9%	8,751	-17.5%
	管	458	448	-2.2%	481	-6.9%
	棒	14,200	14,194	0.0%	14,500	-2.1%
	線	2,133	2,141	0.4%	1,966	8.9%
青銅	板	2,050	1,949	-4.9%	2,113	-7.8%
	条					
	棒	276	272	-1.4%	250	8.8%
	線					
洋白・その他	板	426	373	-12.4%	408	-8.6%
	条					
	棒	329	361	9.7%	386	-6.5%
	線					
合計	59,812	57,930	-3.1%	62,474	-7.3%	

1月の伸銅品生産速報は、57,930トンで前月比マイナス1,882、前年同月比マイナス7.3%となり、前年同月比が14ヶ月連続でマイナスとなりました。

電 線 関 係

電線工業会がまとめた銅電線主要7部門別出荷数量の11月分実績及び12月分推定では、11月分実績はウェイトが高い建販が高水準をキープするも、通信を除き6部門が前年を下回り、総計は5万8千956tで前年同月比で8.1%減少した。

銅電線の12月分推定は建販や自動車など5部門が前年をクリアしたものの、電気機械が減少し、通信も下回るなど、2部門が水面下に沈んだため、総計は5万6千600tで同0.3%の微増となった。

11月分の電線部門別出荷をみると、プラスグループは通信のみで前年同月比16.5%増加し、一部スポット需要が発生した模様。一方マイナスグループは6部門となった。電力はCVケーブルの張替需要はあるが、保守・メンテナンスサービスが主力となり、同9.7%減。電気機械は依然として米中貿易摩擦の影響が大きく、同11.6%減と振るわず、15ヶ月間連続マイナスとなった。自動車は生産台数にリンクし、同4.5%減となり、2ヶ月連続で下降した。ただ、自動車の電動化が進んでいることもあり、10月同様落込み幅は同4.5%減と自動車の生産台数よりもかなり低い結果となっている。建設電販は18年同月の数値が首都圏再開発や五輪向けに好調だったのが影響し同3.8%減と連続の減少に。ただ、エコ電線やCVケーブルの品薄状況は継続。その他内需は米中摩擦の影響で設備投資が鈍く同10.4%減。輸出は、一部スポットの需要がなく、全体的に鈍化したのも重なり同61.8%減少となった。

2019年11月分(実績)・2019年12月分(推定)主要部門別出荷

部門	数 量						金 額		
	11月実績 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	12月推定 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	11月実績 (百万円)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)
通信	954	▼ 6.5	16.5	800	(▼16.1)	▼ 9.1	1,462	(▼6.5)	1.0
電力	(1,420) 4,106	(▼25.2) ▼ 5.9	(▼11.3) ▼ 9.7	(900) 3,200	(▼36.6) ▼ 22.1	(▼21.8) 2.7	(944) 4,730	(▼27.6) ▼ 8.5	(▼20.7) ▼ 13.8
電気機械	(291) 11,305	(38.6) ▼ 3.2	(▼31.2) ▼ 11.6	10,800	▼ 4.5	▼ 6.8	(256) 15,501	(58.0) ▼ 1.5	(▼37.9) ▼ 12.5
自動車	(170) 7,685	(6.9) 0.3	(18.9) ▼ 4.5	7,300	▼ 5.0	0.6	(569) 34,769	(5.8) ▼ 2.3	(▼ 6.1) ▼ 6.3
建設・電販	(24) 29,920	(▼54.7) ▼ 1.6	(14.3) ▼ 3.8	28,400	▼ 5.1	0.7	(21) 33,578	(▼47.5) ▼ 1.3	(▼19.2) ▼ 7.9
その他内需	(67) 4,135	(▼24.7) ▼ 3.5	(▼14.1) ▼ 10.4	(600) 4,000	8.7 ▼ 3.3	(10.3) 1.8	(64) 7,106	(▼29.7) ▼ 2.0	(▼12.3) ▼ 6.0
内需計	(1,972) 58,105	(▼18.1) ▼ 2.2	(▼13.0) ▼ 6.2	(1,500) 54,500	(▼23.9) ▼ 6.2	(▼11.5) ▼ 0.9	1,853 97,146	(▼13.2) ▼ 2.2	(▼19.7) ▼ 8.2
輸出	(1) 851	(▼98.5) ▼ 34.4	(▼99.7) ▼ 61.8	(900) 2,100	(89900.0) 146.8	(89900.0) 18.7	(10.0) 3,851	(▼78.7) ▼ 24.2	(▼93.3) ▼ 37.3
合計	(1,973) 58,956	(▼20.3) ▼ 2.9	(▼23.5) ▼ 8.1	(2,400) 56,600	(21.6) ▼ 4.0	(41.5) ▼ 0.3	(1,863) 100,997	(▼14.6) ▼ 3.3	(▼24.2) ▼ 9.8
心線販売	(545) 30,814	(▼17.5) ▼ 3.9	(▼63.6) ▼ 8.9	(400) 26,600	(▼26.6) ▼ 13.7	(▼72.6) ▼ 7.8	(133) 20,654	(▼17.9) ▼ 3.1	(▼67.6) ▼ 16.3

(注) ()内はアルミ線を示し外数。ただし推定欄のアルミ線は電力、輸出部門以外は「その他内需部門」に一括計上。▼はマイナス。
金額は四捨五入の為計が合わない場合がある。

2019年11月分品種別出荷 単位:銅量:トン アルミ量:トン 金額:百万円

品種	数量	対前月比 (%)	対前年 同月比	金額	対前月比 (%)	対前年 同月比	
裸線	3,545	▼ 6.3	▼ 13.2	2,873	▼ 4.1	▼ 16.7	
巻線	10,800	▼ 1.6	▼ 9.3	11,446	▼ 2.3	▼ 11.1	
機器用電線	3,377	▼ 3.2	▼ 12.6	9,918	▼ 13.0	▼ 9.8	
通信用電線・ケーブル	1,376	▼ 11.6	▼ 10.2	3,062	▼ 8.6	▼ 11.7	
電力用電線・ケーブル	22,731	▼ 2.2	▼ 5.4	22,730	▼ 3.3	▼ 11.2	
被覆線	11,245	▼ 4.0	▼ 8.4	15,667	▼ 3.6	▼ 9.7	
輸送用電線	5,882	▼ 1.0	▼ 9.1	35,302	▼ 3.4	▼ 7.6	
銅電線計	58,956	▼ 2.9	▼ 8.1	100,997	▼ 3.3	▼ 9.8	
EM電線・ ケーブル	通信用電線・ケーブル	85	▼ 6.6	11.8	278	▼ 5.4	8.6
	電力用電線・ケーブル、被覆線	3,783	▼ 7.9	13.4	4,313	▼ 5.8	12.6
	計	3,874	▼ 7.9	13.4	4,619	▼ 6.0	11.9
アルミ電線計	1,973	▼ 20.3	▼ 23.5	1,863	▼ 14.6	▼ 24.2	
光製品	2,839,358	▼ 9.2	▼ 35.1	24,728	4.4	▼ 8.7	
うち、光ファイバーケーブルコード	-	-	-	5,216	3.9	▼ 5.4	

(注) 1. EM電線・ケーブルはJCS規格17品種が対象であり、機器用、消防用等のノンハロタイプは含まれない

(注) 2. 四捨五入の為計が合わない場合がある。

(注) 3. 光製品の数量はkmc

(注) 4. ▼はマイナス

◎ アルミニウム関係

○ 国際アルミニウム地金相場、第1週は、新型コロナウイルスの感染者、死者数は引き続き増加。アルミ相場の重しとなっている。中国政府が感染拡大への対処で景気対策を実施したことを受けリスクオフの流れは一旦和らいだ。中国当局の支援策への期待や米国からの750億ドル相当の米輸入品に対する関税引き下げを中国が発表したことで上伸し\$1,750に到達。第2週、S&Pグローバルが中国の今年の成長率予想を5.7%→5%に引き下げるなど、ベースメタル全般の上値は重い。COVID-19の新規感染者がピークアウトしたとの期待感があったが欧州経済指標の弱さからユーロ安が進み、狭いレンジでのボックス相場となる。中国の感染症例確認方法の変更による感染者数の急増により上値重く推移。第3週、上海アルミ在庫は2週続けて大幅に増加し前週比+3.6万MT(1.2%)とマーケットの重しとなる。然しながら週中からLME在庫の減少、アジアを中心にLME在庫の純減が続いており底値も支えられる状況で狭いレンジでの推移。第4週、韓国・イタリアなど中国国外での新型コロナウイルス感染者数が急増。感染拡大による景気下押し懸念から、世界的に株価は下落、リスク資産は全面安の展開になる。米国経済への悪影響が懸念され米国株も大幅安となる。アルミ相場は方向感なく狭いレンジでの推移予想。Q2プレミアム交渉では、第一報で\$90のオファーがあったと報道されたが、新型コロナウイルスの影響による需要減もあり買い手との温度差も大きく、当面は小幅な動きで\$1,700前後での推移を予想。

○ 対日オファー及び国内価格

- ・対日オファー (CIF) 2020年 2月積 1,761.00~1,771.00 ドル/トン
- ・輸入採算価格 2020年 2月積 208.90~210.10 円/kg
- ・NSP 2019年 12月 247.40 円/kg
- ・NSP (メーカー対応価格) 2020年 1月~3月 250.00 円/kg

○ IAI統計アルミニウム新地金生産高 (単位=千トン)

	'19年12月	'20年1月	'19年1月
月生産	*2,395.0	2,371.0	2,344.0
平均日産	*77.3	76.5	75.6

(* =訂正有り) 中国は対象外にしております。

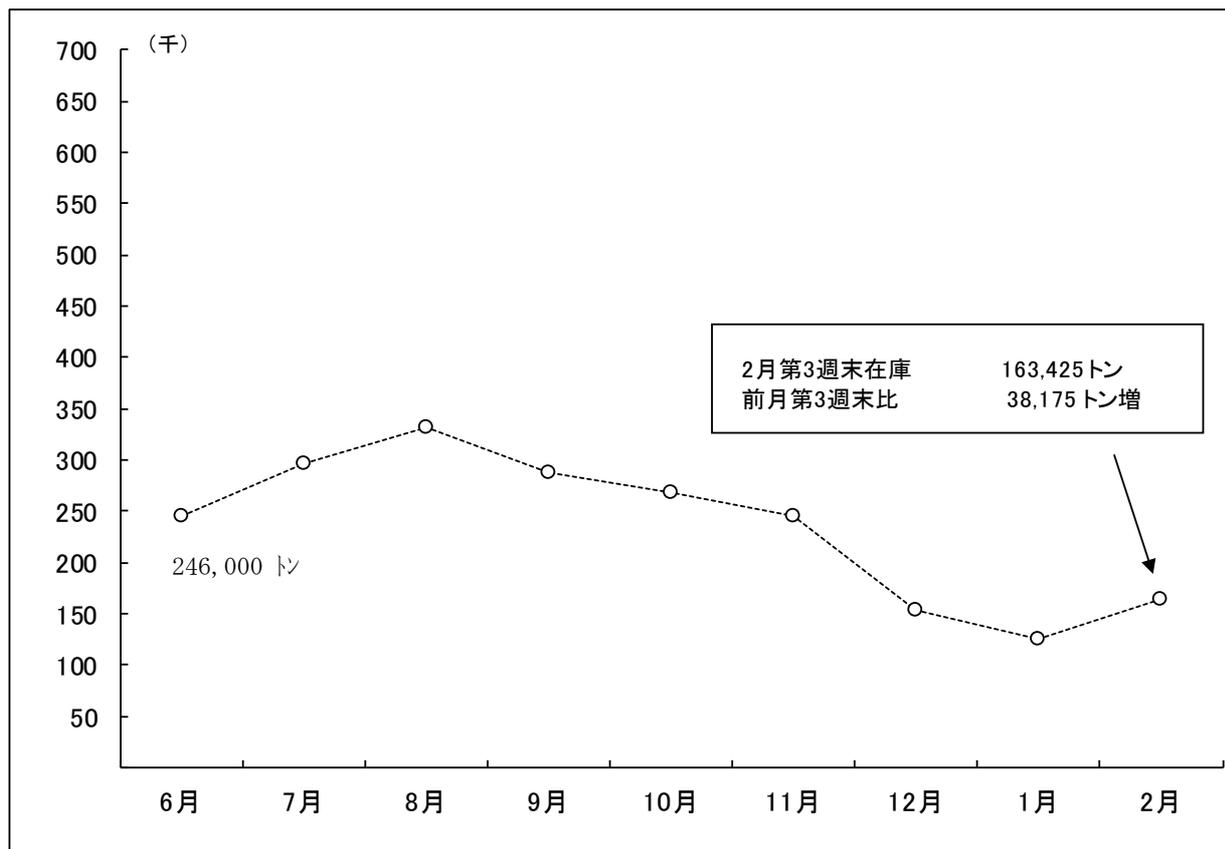
○ アルミインゴット港湾在庫

(単位: トン)

	2019年10月	2019年11月	増減	2018年11月	増減
横浜	161,000	155,000	-6,000	145,200	+9,800
名古屋	141,700	151,200	+9,500	135,200	+16,000
大阪	15,500	15,000	-500	15,000	±0
合計	318,200	321,200	+3,000	295,400	+25,800

上記アルミインゴット港湾在庫に変更致しました。(2015年1月分からの変更です)

◎ LME銅在庫 (各月第3週末参考)



◎ COMEX在庫 (第3週末)

・20年2月21日現在 28,957 S T 前月比 5,746 S T 減

◎ 国内山元電気銅在庫

・19年12月末 98,228 トン 前月比 8,209 トン増

◎ 伸銅品生産実績

・19年12月確報 59,812 トン
・20年1月速報 57,930 トン 前月比 96.3%

◎ 電線出荷実績

・20年1月速報 54,100 トン 前月比 95.6%

◎ 軽圧品生産実績

・20年 1月	板 類	77,380 トン	
	押 出 類	55,653 トン	
		133,033 トン	前月比 88.3%

以上簡単ですが銅概況、他のご報告申し上げます。